

おばあちゃんとおブン

ぶん 山崎陽子 え 鈴木まもる



おばあちゃんとセブン

ふん 山崎陽子 え 鈴木まろる





ぼくの ともだちは 六人^{むににん}と いっぱい。
せいたかのつぼの とおるくん。
目だまんまるの けんちゃん。
うたの じょうずな まきちゃん。
おしゃれな ゆっこちゃん。
あまえんぼうの みいちゃん。
いぬの セブン。
そして、みいちゃんのおばあちゃん。
えっ、おばあちゃんや いぬが
ともだちじゃ おかしいって。
でも、ほんとに
おばあちゃんも セブンも、
ぼくの だいじな





カシ



カタツムリ



カキツバタ



カラス



カマキリ



アジサイ



シメジ



カブト

おばあちゃんど ともだちに なったのは、
 こうえんだったの。
 みいちゃんは、小さいから いつも、
 おばあちゃんと いっしょだったの。
 さいしよは、おばあちゃんが、いるなんて
 いやだなんて おもって いたんだ。
 みんなんも そうだったよ。
 でも、おばあちゃんは、すぐに
 みんなんと なかよしに なっちゃった。
 だって、おばあちゃん、やさしくて おもしろくて、
 そのうえ、とっても ものしりなんだもの。
 花や 草の なまえ、いろんな あそびや、
 おはなしを たくさん しまって いるんだよ。





おばあちゃんは、
 いつも げんき いっぱい。
 なんだって、できるんだ。
 そりゃあ、かけっこや、なわとび、
 てっぺんは、ぼくたちの、ぼうが
 じょうずだけれど、
 あやとりや、ねんど、
 おりがみなんか
 おばあちゃんには
 かなわない。
 たけうまや たけとんぼ、
 おてだま……、おばあちゃんに
 おしえて もらって
 つくった、ものは、
 みんな ぼくたちの、たからもの。



おばあちゃんは
おかしをつくるのが、とくい。
おやつに、おいしい、おかしを
つくって、くれるんだよ。
いいでしょ。





セブンが みんなの なかまいりしたのも

おばあちゃんの おかげなんだ。

セブンは まだ 困も みえない あかちゃんの とき

こうえんに すてられて いたの。

おばあちゃんは ぐったりした あかちゃんいぬを

うちに つれて かえるこ。

まるで、いぬの おかあさんみたいには、

ミルクを のませたり、おしっこを させたり。

ぼくたちも まいにも みいちゃんの うちへ 行って

おばあちゃんの おてつだいしたんだよ。

なまえも 七人で きめたの。

セブンって、えいこで 七の ことなんだって。

これも、おばあちゃんが おしえて くれたんだ。





みんなで、そだてた、セマン。
ぼくたち、^{おとうさん}おとうさんと、いっぴぎ、
いつも、ながよし、いつでも、いっしょ。
いつまでも、あそんで、いたけれど、
ゆりやけでもが、さよならの、あいず。
「さよなら、また、あした。」
みんな、あくしゆするんだ。
おばあちゃんの手は、しわしわだけど、
とっても、あたたかくて、まらちが、いい。
セマンだって、ちゃんと、あくしゆできるんだよ。

